



# サイボウズ ソーシャルデザインラボ 活動報告書 2023

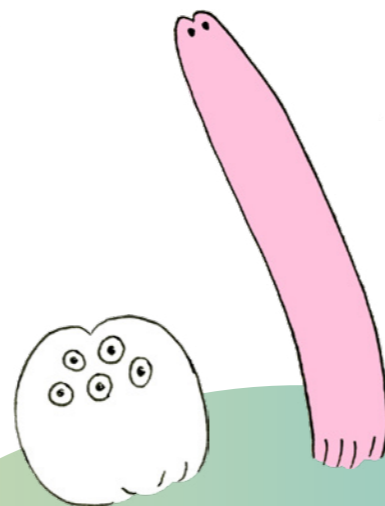
社会課題を解決する社会実証実験



# 目次



- 1 ご挨拶
- 2 能登半島地震災害支援特集
- 3 学校の働き方改革プロジェクト
- 4 「サイボウズらしいワクワクする学び場を創ろう」プロジェクト
- 5 地域経済活性化プロジェクト
- 6 虐待防止プロジェクト
- 7 地域創生 / 共創プロジェクト
- 8 災害支援プロジェクト
- 9 障害者支援プロジェクト
- 10 社会人キャリア自律支援プロジェクト
- 11 カーボンニュートラルプロジェクト
- 12 非営利団体との協働プロジェクト
- 13 あとがき



## 1 ご挨拶

皆さん、こんにちは。

私たちサイボウズ ソーシャルデザインラボは、常に変化する社会の中で、未来を予見し、社会課題を解決するための社会実証実験を行っています。これらの実験は、政府や行政機関の政策決定においてエビデンスとして活用されています。

「ソーシャルデザイン」という言葉には、人と社会のつながりをデザインするという意味が込められています。私たちは、この考え方を基に、サイボウズ流のチームワークによる「多様な価値観の人が安心して暮らしている社会づくり」を目指しています。

サイボウズ流のチームワークとは、「理想への共感（共通のビジョンを持つ）」、「多様な個性を重視（自分や他人の個性を認識できる）」、「公明正大（透明性を保つ）」、「自主自律（主体性を持ちチームに関わる）」、「対話と議論（お互いの考えを伝え知り、論じ合っ  
て意思決定する）」です。簡単に言えば、サイボウズのようにオープンに情報を共有し、対話と議論を大切にするチームです。

これを実現するために、サイボウズのクラウドサービス「キントーン」を活用し、社会問題の解決に取り組んできました。

社会課題のテーマは、さまざまです。例えば、「災害支援」や「子どもの虐待防止」など、多岐にわたります。一部の実験は既に成果を上げ、大きな成長を遂げていますが、まだ発芽したばかりの育苗実験もあります。この報告書を通じて、これらの実験を共有し、多くの方々との共感や協働関係を築きながら、より高い理想に向かって進んでいきたいと考えています。

この報告書が、読者の方々の勇気を引き出し、同様の活動に取り組んでいただけるきっかけとなることを願っています。引き続き、ご支援いただけますようお願い申し上げます。

サイボウズ ソーシャルデザインラボ

所長 中村 龍太



# 2 能登半島地震災害支援特集

## 2024 年能登半島地震における緊急災害支援レポート

1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」によりお亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災者の皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

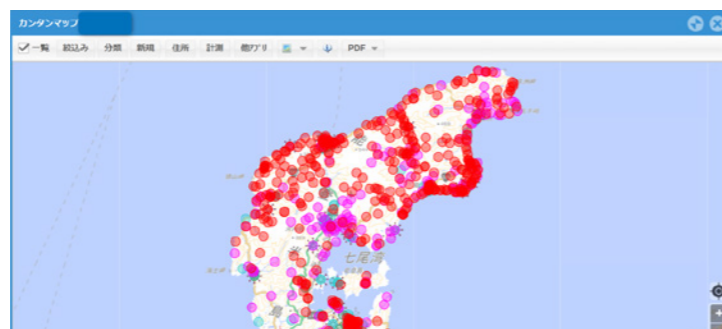
サイボウズは、今回の地震発生直後より災害現場におけるIT支援や、被災地で直面している課題を支援する活動を行っています。現時点までの活動内容についてお伝えさせていただきます。



地震直後の輪島市三井地区

## 避難所の状況把握から支援スタート

コロナ対応で接点のあった自見はなこ内閣府特命大臣より柴田哲史災害支援チームリーダーのもとへ現地支援に入ってほしいとの要請が入り、1月4日より石川県西垣副知事のもと災害対策本部にて活動開始しました。最初に課題であった避難所と孤立集落の状況把握に着手しました。移住者ネットワー



避難所情報を入力した kintone

クや自衛隊と連携しながら避難所や孤立集落情報をタブレット端末経由でkintoneに入力しました。およそ600か所の避難所情報を3日間でもとめデータ化していききました。その後、発災後時間経過とともに変化していくニーズにあわせて医療支援者向けアプリや介護スタッフのスケジュール管理アプリなどを効率的な運営に役立ててもらうために構築していききました。

## 能登在住の人脈と知見をいかした被災地現場の支援

私たちソーシャルデザインラボのメンバーである野水克也（サイボウズフェロー）は3年前に能登地域に移住し、現地にて被災しました。発災直後から現地支援に取り組み、様々な現地の相談（IT支援、インフラ、心のケア、炊き出し、物資運搬）の仲介役や副業にて所属しているコミュニティ財団「ほくりくみらい基金」での助成金審査、実行などを行っています。発災直後は、通信網が遮断されかなりの地域が通信途絶状態になりました。このため、衛星通信設備の調達依頼要請をあげ、名古屋拠点のメンバーがパートナー企業より貸出提供を受けて、金沢で中継し被災地の避難所に設置して皆様に大変喜んでいただくことができました。

## 社内外のチームが立ち上がり、多面的に支援を開始

石川県下の各被災地域からのIT支援要請については、9社の弊社パートナー企業に多大なる協力をいただきながら自治体や民間支援団体のIT支援を行っています。また社内の有志による能登地方の日本酒づくりをテーマにした映画「一献の系譜」のチャリティ上映会の開催や、ちいクラ未来会議においてチャリティ講演の実施など社内外の横断チームで能登地域の災害支援に取り組んでいます。

能登地域の復興にはまだまだ多くの課題があり、長期的に支援を行っていく必要があります。私たちは、これまでの災害支援、復興支援現場で培った知見を活かしながら能登地域の復興を地域の皆様と一緒に取り組んで参りたいと考えています。

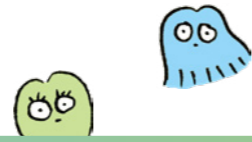
### 能登半島地震支援パートナー一覧

株式会社ジョイゾー  
株式会社ノベルワークス  
株式会社ダंकソフト  
あっとクリエーション株式会社

アールスリーインスティテュート  
株式会社コムデック  
株式会社 MOVED  
ワークログ株式会社  
トヨクモ株式会社



# 3 学校の働き方改革プロジェクト



## 学校の働き方改革「学校 BPR チーム」とは

学校BPRとは、学校の働き方改革のことです。経済産業省による採択事業「未来の教室」において、サイボウズが2021年7月より2022年2月まで実施した静岡県三島市内の公立小中学校と教育委員会での実証事業を行いました。この実証事業の結果を踏まえ、2022年度サイボウズと三島市教育委員会で学校BPRの範囲を拡大し、さらに学校業務のなかでのDXの取組みを進めたものとなります。この活動を通じて、kintoneを活用した修繕依頼のシステムを構築し、2022年度の修繕依頼975件に対して依頼作業時間が全体で244時間削減されるという結果を得ることができました。

## 2023年の取組みについて

学校BPRでの実証事業の結果を踏まえ、三島市教育委員会にてkintoneを本格導入いただきました。教育委員会職員および、三島市公立小中学校21校の全職員にアカウントが配布され、校務に活用されています。現在は生徒の家族構成や連絡先、通学路などを記入する家庭環境調査票や、保健調査票、各種問診票、タブレット使用同意書等の受付管理に利用されています。

また、上記の詳しい取組みについてCybozu Daysにて三島市教育委員会の杉山さんに導入にまつわる裏話をお話いただきました。



三島市教育委員会の活用図

## 2023年度の成果・学び

三島市教育委員会でのkintone導入に関するプレスリリースを2023年5月に実施しました。校務のデジタル化で年間1万枚以上のペーパーレス化を実現し、特に家庭環境調査票については、保護者から提出された紙の情報を教員が校務システムへ転記する作業を削減できるようになったため、約450時間の作業時間削減効果が得られたそうです。この内容に多くの学校関係者、自治体関係者に共感いただくことができ、お問い合わせに結びついている状況です。

Cybozu Daysのセッションでは、アンケート調査の結果98%の方が満足以上という回答が得られました。私たちも現場の教育関係者の方々と一緒に取組んだ結果が実を結びという場面に立ち会うことができ、大きな喜びとやりがいを実感することができました。



## 2024年度の活動予定

Cybozu Daysへの登壇以降案件としてのお問い合わせが多数寄せられています。弊社の営業部門と協力しながら、多くの自治体様で理想的な働き方のモデルとしてご活用いただけるように支援して参りたいと考えております。

# サイボウズらしいワクワクする 学び場を創ろうプロジェクト



## 「サイボウズらしいワクワクする学び場を創ろうプロジェクト」とは

不登校といわれる状態の小中学生が年々加速的に増加し、2022年には30万人に迫る水準に達し子供を取り巻く環境が大きな社会問題になってきています。これまで教育現場に関わる活動を行う中で、不登校や登校しながらも学校を楽しめていない生徒がいる状況に関心を寄せてきました。一方で、学校現場では、忙しすぎて、生徒と向き合う時間を十分に取れなくて辛い、という先生の言葉も耳にします。

サイボウズでは、自分の得意と、メンバーの多様性の両立をめざしながら、チームワークよく仕事することを大切にしています。そんな私たちが、従来の学校の形にとどまらず「ワクワクする学び場」を生み出せないか。繋がりのあった横浜市立鴨居中学校の和みルームに関わる先生たちと一緒に、ワクワクしながら子どもたちの関心を広げる学び場づくりのプロジェクトを2022年から始めています。

## 2023年の取組みについて

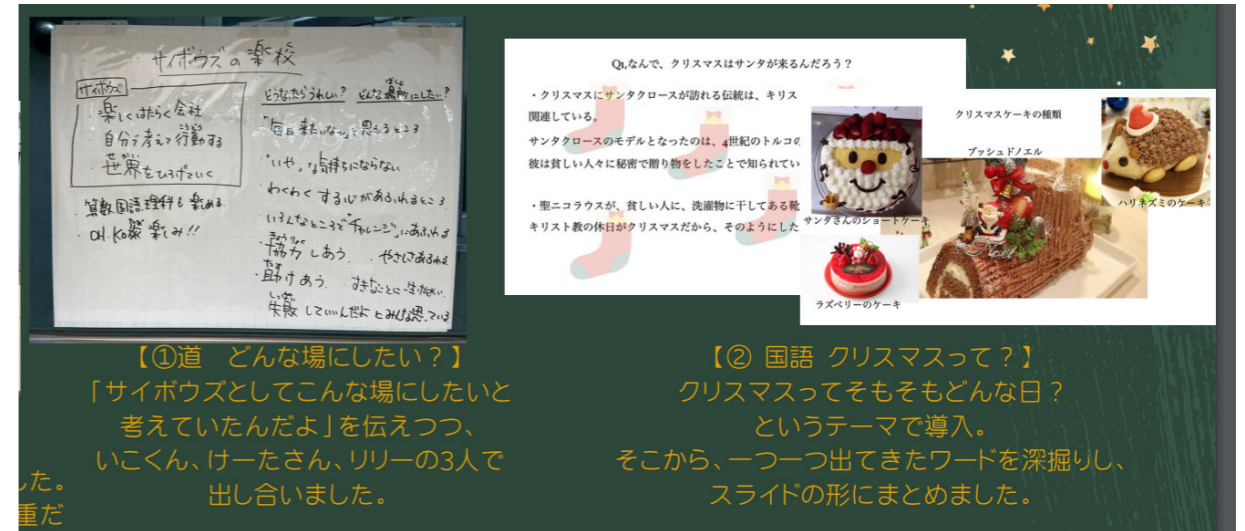
和みルームでは、課題を抱える生徒たちに対して誰もが安心して過ごせる場づくりを大切にしたいと考え、民間企業と連携しながら様々な取組みをしています。今年は生徒たちと一緒にどんな活動をしていきたいのか相談し、「学校にくる目標になるもの」、「自然にふれるもの」という観点から畑で人参栽培を行うことになりました。活動は学校に来られる生徒も、来られない生徒も参加できるようにできる限りリアルとオンラインの両方で話し合いを実施しました。どんな野菜を作るのか（オンライン/リアル）を話し合っ決め、種植え付けや管理方法（オンライン）のアドバイスをもらいながら育てる過程を栽培記録簿（kintone）に登録、収穫した野菜を販売し、収益金の一部を、募金したり子ども食堂へ提供したりしました。



人参栽培記録簿（kintone）

## 2023年度の成果・学び

生徒によっては虫が苦手なため栽培には消極的なものの、栽培した作物を販売する際のポスター作りでは積極的にかかわる姿勢がみられるなど、場面によって自分の得意を大切にしながら、多角的に学ぼうとする姿勢がみられました。畑での人参栽培をとおして、子供たちがいきいきと学ぶ様子を目の当たりにでき、これから開校予定のフリースクールのカリキュラムづくりのヒントを得ることができました。



【①道 どんな場にしたい？】  
「サイボウズとしてこんな場にしたいと考えていたんだよ」を伝えつつ、いこくん、けーたさん、リリーの3人で出し合いました。

【②国語 クリスマスって？】  
クリスマスってそもそもどんな日？というテーマで導入。そこから、一つ一つ出てきたワードを深掘りし、スライドの形にまとめました。

サイボウズの楽校のクリスマス授業の1コマ

## 2024年度の活動予定

サイボウズらしいワクワクする学び場は、4月に「サイボウズの楽校」（東京都・吉祥寺市）として本格開校します。小学生向けのオルタナティブスクールとして現在プレ開校しています。学習としては、国語・算数・理科の教科学習のほかに教科横断的に学べるカリキュラムを作っています。サイボウズの楽校での楽しい学び体験を通じて子供たちが自分らしさを発揮しながら主体的に人生を歩んでいける力を育てていきたいと考えています。ぜひ、お子様の個性を大切にしながら楽しく学べる場所をお探しの方はご連絡ください。



サイボウズの楽校 HP

# 5 地域経済活性化プロジェクト



## 「地域クラウド交流会」とは

「地域クラウド交流会（通称：ちいクラ）」とは、地域経済がより活性化することを目的に地域住民が地元で活動する起業家を応援する交流会形式のイベントです。サイボウズでは、イベントを主催するオーガナイザーを育成する役割を担っています。2015年以降「地域をチームにする！」を合言葉にオーガナイザーが中心となって現在まで全国各地で176回開催され、延べ23,836名の方が参加されています。

## 2023年の取組みについて

2020年から流行したコロナウィルスの影響から約3年間リアルで開催することができない状況が続きました。2023年5月に感染症として第5類の扱いになったことで再びリアルに開催することが可能となり、12回開催されました。また、10月には、4年ぶりに釧路市（北海道）と共催で全国大会（主催：合同会社Hokkaido Design Code・釧路信用組合・株式会社ジョイゾー）を開催することができ、多くの参加者からちいクラの復活を喜ぶ声を直接聞くことができました。



地域クラウド交流会全国大会（釧路市）

## 2023年度の成果・学び

### 新しい地域での活動がスタート

昨年開催した「シン・ちいクラ・カイギ」をきっかけに松江市（島根銀行）、仙台市（宮城第一信用金庫）など新たな地域でちいクラを開催することができました。また、千葉市（笑顔のコミュニティ株式会社）では2017年以来6年ぶりに復活開催することができました。

### 新たに13名のオーガナイザーが誕生

ちいクラを開催したいという新たなオーガナイザーが13名誕生しました。2024年は新たに甲府市（山梨県）、千歳市（北海道）にもちいクラの輪が広がる予定です。

### ちいクラが8年間の活動を通して生み出した地域経済への波及効果を検証

イベント開催後に地域でどんな変化が生まれたのか検証するためオーガナイザーへ協力を要請したところ、多くのメンバーから意見書が提出されました。それによると、参加者と起業家の助け合いや地域に新しいコミュニティ（行政、地域住民、金融）の誕生、新たな雇用創出、地元自治体、金融機関との信頼関係・連携強化、さらに参加者から起業家が誕生と開催時だけでなくその後地域での絆も深められている事例が多く報告されました。

## 2024年度の活動予定

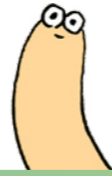
地方都市においては、新たなツールに対する慎重な姿勢が多く見受けられ、業務改善へのハードルが1つの課題となっています。ちいクラでは運営システムの1つとしてkintoneが採用されているため自然にふれることができ、新たなツールとの出会いのきっかけにつながっています。この機会を活かしてどのように地域にDXの輪を生み出していくのか探求していきたいと考えています。



地域クラウド交流会（千葉市）

また、地域経済の中核を担う地域金融機関との連携もさらに深め、地域経済に好循環の輪をひろげていけるよう地域のリーダーの育成にも力を注いでいきます。地域の活性化に課題をお感じの方がいらっしゃいましたら、ぜひ1度お近くのちいクラにお越しいただきちいクラの魅力を体感してみてください。みなさまのご参加お待ちしております。

# 6 虐待防止プロジェクト



## 「虐待防止特別プラン」とは

サイボウズでは、虐待で苦しむ子どもたちを少しでも早く助けるために2018年より虐待防止に取り組む機関の連携にクラウドサービスを5年間無料で提供する特別プランと専用窓口を設けています。

2022年度のこども家庭庁の報告によると児童虐待相談対応件数が219,170件と過去最多を記録。膨大な通告に対しマンパワーや保護する場が不足し、危険な状況にいる子どもたちが数多く存在している状況が続いています。

サイボウズでは児童福祉関係者や虐待の被害者であった方々との学びの機会を設けながら関係者の新たな連携モデルの構築に携わってきました。

2023年末時点では17自治体がサイボウズのクラウドサービスを虐待防止特別プランで利用しています。

## 2023年の取組みについて

2023年度は、これまで多かった市区町村での学校や保育所、役所が連携する要保護児童地域対策協議会での利用に加え、新たに埼玉県、さいたま市、板橋区の児童相談所で虐待防止特別プランでのkintone運用が始まりました。

埼玉県では県内全域の児童相談所9か所、児童養護施設22か所との連携で「入所状況

確認システム」としてkintoneが運用されています。担当者ごとに都度電話で行っていた児童養護施設への空き状況の確認をシステムで行えるようにし、可能性がある施設には個人情報を含まない形で入所の打診や回答を行っています。



埼玉県入所状況確認システム

また虐待を受けた当事者や児童福祉関係者との協働としては、ドキュメンタリー映画「REALVOICE」（山本昌子監督）上映会や児童虐待被害者の伴走支援を行う一般社団法人Onaraの調査報告会「見えなかった子どもたち～虐待被害者の未来を知ってください」、子どもアドボカシー学会の研究大会をサイボウズ東京オフィスで開催しました。



虐待被害者の実態調査報告会

## 2023年度の成果・学び

埼玉県の入所状況確認システム導入後のアンケートにおいては、62.5%の児童養護施設の担当者からシステム導入後に変化があったとの回答が寄せられました。

具体的には「電話対応業務が減った、入所依頼状況の全体像がみやすくなった、協議しやすくなった」との回答がありました。

- 施設へのアンケートで62.5%がkintone導入後に「変化あり」と回答  
自由記述より
- ・電話対応業務が減った
  - ・無駄な時間が省けている
  - ・現状来ているものが残るため協議しやすい
  - ・さかのぼって確認できる
  - ・入所依頼状況の全体像が見えやすくなった

入所状況確認システム導入後アンケート

## 2024年度の活動予定

改正児童福祉法で市町村における「子ども家庭センター」の設置が努力義務化されたことを受け、児童虐待を防ぐための包括的な情報共有や連携円滑化にkintoneが活用される予定です。今後も使い勝手に関するご意見をうかがい多様な関係者と協働しながら、新たな活用モデルの構築・発信に取り組んでまいります。今年の活動にもご注目ください。

# 7 地方創生 / 共創プロジェクト



## 「地方創生プロジェクト」とは

サイボウズでは、クラウドツールを活かした情報共有で地域をチームにしながら社会課題解決に取り組んでいます。

地域が抱える課題は、複雑なものも多く、時間をかけながら解きほぐしていくような進みが緩やかなものも多くあります。まだ芽が出始めたばかりのものもあります。その中からいくつかの具体的な事例をご紹介します。

## 2023年の取組みについて

### 1 サイボウズと公益財団法人ほくりくみらい基金連携協定締結

私たちは、石川県で活動している市民が出資して設立されたほくりくみらい基金と連携協定を締結し、当事者団体のチームワーク向上につながるクラウドツールの普及と寄付を実施しました。



ほくりくみらい基金設立発表

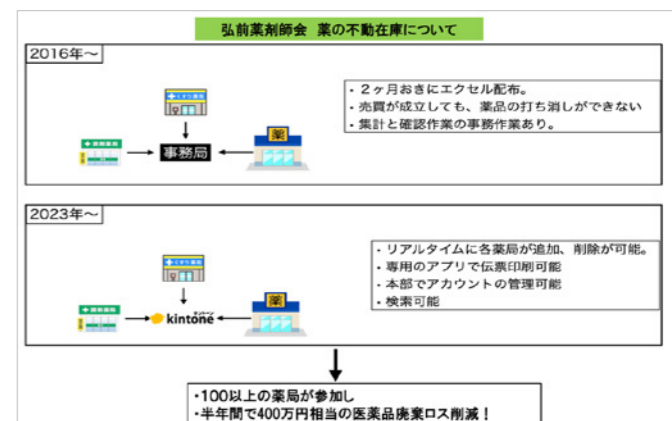
### 2 弘前薬剤師会と医薬品ロスの改善活動を支援

全国的に医薬品の供給不足や薬の余剰在庫という「医薬品ロス」が課題となっています。この問題に取り組む一般社団法人弘前薬剤師会より昨年の私たちの活動報告書をご覧いただいたことをきっかけに社会実証実験を一緒に取り組みたいとご相談いただきました。今回はkintoneを活用した薬局間で融通しあうことのできる在庫管理の仕組みづくりを行いました。

## 2023年度の成果・学び

ほくりくみらい基金では、財団設立準備段階から「チーム応援ライセンス」を活用した情報基盤整備に取り組んでいます。現在もその基盤を活かして能登半島地震のスピーディーな助成金審査や財団の運営などに積極的にご活用いただいています。

弘前薬剤師会では、地域内の薬局が抱える薬の在庫をリアルタイムで確認できるようになりました。そのおかげで、弘前市内では半年間で400万円相当の薬の廃棄ロスの削減を行うことができました。現在では、市内の100以上の薬局がこの取組に参加しています。



弘前薬剤師会の薬の不在在庫確認の仕組み

## 2024年度の活動予定

### 能登地方の震災復興支援

2024年1月1日に発生した能登地震の影響により、能登地方は甚大な被害に見舞われています。あまりにも大規模な被害であったため、産業復興、集落再生、福祉人材不足解消、高齢化など様々な社会課題が同時に起こっています。これから復興活動が活発になっていく過程で私たちの得意なチームワークを活かした支援の在り方を現地のみなさんと一緒に考え、模索しながら新たな復興モデルを見つけたいと考えています。



新潟県上越エリア「地域の人事部」イメージ図

### 新潟県上越エリアの地域課題解決

新潟県上越エリアで「地域の人事部」という活動を進めています。地方の人口減少問題に課題意識を持ちながら地元の民間企業と地域外人材との連携方法を模索しています。今年はさらに行政機関も加わり、一緒にチームを作りながら地元企業と地域外人材の接点作りを進めていきます。



# 8 災害支援プロジェクト



## 「サイボウズ災害支援プロジェクト」とは

日本は四季折々を感じることでできる豊かな自然環境に恵まれた国土ですが、一方災害大国といわれるほど自然災害の発生確率の高い国です。

サイボウズでは、IT分野で被災地支援を行う「災害支援プログラム」に取り組んでいます。2021年に発生した熱海市土砂災害以降、被災地でのボランティアセンターを運営している社会福



災害ボランティアセンター運営支援システム

祉協議会に情報共有システムとして「kintone」を提供し、発災直後の混乱しやすい場面でボランティア人材の受付や現場ニーズの整理、支援箇所を地図上に登録し、支援状況を把握する仕組みを提供しています。以前は災害が発生してから、支援要請が来る流れでした。最近は各自治体の防災意識が高まり、事前に非常時に備えて訓練しておきたいという引き合いが増えてきています。現在47都道府県中24都道府県の社協で導入いただいています。

## 2023年の取組みについて

2023年は静岡県、埼玉県、石川県、茨城県、福岡県、福島県、秋田県の被災地の社会福祉協議会向けに「災害ボランティアセンター運営支援システム」の提供を行いました。2月に発生したトルコ地震においては初めての海外被災現場の情報収集にリモート支援を実施し、このつながりから、5月に開催されたG7広島サミット医療本部の支援システムとしてもkintoneを活用いただくことができました。



いわき市災害ボランティアセンター

## 2023年度の成果・学び

福島県いわき市の被災地支援現場では、被災前からkintoneを利用いただいていたため、ボランティア稼働初日からシステムを運用することができ、4000件以上の個別訪問をスムーズに行うことができました。

G7の医療本部支援では、従来スプレッドシートで情報を管理していたものが、システム活用した情報共有を行うことによって医療現場と関係各所の連携がスムーズにできるようになり、効率的な運営が可能になったとの喜びの声が聞かれました。また、研修時に活用いただくための「kintone研修テキスト」の作成も実施しました。より現場担当者主導で学び、さらに活用いただける体制も整えることができました。



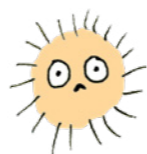
災害ボランティアセンター  
Kintone 研修テキスト  
販売サイト▼



## 2024年度の活動予定

2024年も全国の社協と協働して、災害支援プログラムをさらに汎用的に活用いただける状態を目指して啓蒙活動に取り組んで参ります。また、トルコ地震の支援の経験や、G7サミットで連携が生まれた災害医療系団体と一緒に海外でも活躍する災害支援システムを探求していきます。今年の活動にもご期待ください。

# 9 障害者支援プロジェクト



## 障害者支援プロジェクトとは

サイボウズ ソーシャルデザインラボでは「チームワークあふれる社会を創る」を理想に掲げ、多様な価値観の人が安心して暮らしている社会づくりを目指しています。障害者支援の分野では、多様な人がともに働ける機会の創出やパラスポーツ応援などを進めています。

## 2023年の取組みについて

### 障害者インターンの受入れ

今年は視覚障害のある方にサイボウズで1週間インターン体験していただきました。事前ミーティングでは合理的配慮が必要な点を教えてもらいながら体験プログラム作りを丁寧に行いました。移動、作業、コミュニケーションの3つの分野での配慮ポイントをまとめ、メンバーにも伝え、協力してもらいながら進めました。インターン期間中は音声読み上げソフトや入力ツールなどを活用しながらレポート作成を実施し、メンバーと事業や業務説明で連携する機会を作り、なるべく一緒に働く時の具体的なイメージを膨らませる体験を中心に行いました。

項目	合理的配慮まとめ	留意した配慮の理由
コミュニケーション	発言するとき、話しかけるときは名前を呼ぶ →ランチの態など、みなさん心がけてくれました	発言するとき、話しかけるときは名前を呼ぶ 話しかける際の名前を呼ぶ
コミュニケーション	指示語を詳しく会話する →名前やお互いに伝わる言葉でやり取りできるように心がけました	指示語を詳しく会話する
コミュニケーション	声をかけて反応が鈍い場合は、大きな声で繰り返したり、肩を叩く →イヤホンをしていないこともあり、大きな声でゆっくり名前を呼ぶなどしました	声をかけて反応が鈍い場合は、大きな声で繰り返したり、肩を叩く
移動	オフィス内＆ランチタイムのアテンド →階段や方向、エレベーターなどの声とひじを使いアテンド	オフィス内＆ランチタイムのアテンド オフィス内＆ランチタイムのアテンド

合理的配慮まとめ

### 福祉事業者のDX活用支援

多機能型事業所Re.co.さんでは、福祉事業所の運営にkintoneの導入支援を行いました。具体的には、行政への報告時の記録データの集計、スタッフの面談、時間管理記録、利用者の日報などに利用しています。

### パラスポーツ応援

電動車いすサッカーの経験が起業につながったという佐藤仙務さんが代表を務める太田川ORCHIDへの協賛をはじめました。

## 2023年度の成果・学び

障害者インターンについては、障害の種類や性格などによって適する業務が異なるためOJTを通して相互理解を深め、できることむずかしいことを明確にしながらご本人の能力が最大限にいかされる機会を丁寧にみつけていく大切さに気付かされました。

福祉事業所のDX支援では、必要とされているサポートを数値で見える化したことによって、支援の質の向上に役立てることができるようになったそうです。



太田川 ORCHID 車いすサッカー体験会

## 2024年度の活動予定

### 障害者雇用の課題解決の仕組みづくりにアプローチ

ワーク・トモニスさんと一緒にLLPの仕組みを活用した新しい形の障害者雇用の取組みをスタートする予定です。私たちが持っているサイボウズらしいチームワークのノウハウで障害者雇用を生み出す仕組みづくりに挑戦していきたいと考えています。

### パラスポーツ応援

昨年に引き続きアルケア株式会社さんと協力しながらパラアスリートのITを活用した競技環境支援の取組みを行っていきます。

多様な人が小さなころからあたりまえのように交わる世の中になり、自分の居場所をみつけていける世の中にしていきたいそんな未来が少しでも早く実現できるように私たちにできることから着実に進めていきたいと考えています。今後も随時公式noteなどから活動情報を発信してまいりますので、これからの活動にもご注目ください。



## 「PIC スクール (ポジティブ・インパクト・チャレンジ)」とは

「キャリア自立」や「リスクリング」のキーワードが世の中に広まりつつある中で、自らのキャリアの将来像が描きにくくなっている人たちがあらゆる年齢層で増えていると感じています。私たちはそんな方たちに自分の可能性を信じ、未来へ力強い一歩を踏み出すための思考法を「PICスクール」というオンラインスクール形式で提供しています。

## 2023 年の取組みについて

若手層へのグループコーチングスクールを提供するため、Webページのリニューアルを実施しました。当初集客に苦戦することもありましたが、メンバーが集まり無事にグループコーチングスクールを開校することができました。プログラム設計では、同年代の仲間と一緒に自らの課題と向き合うことで、心理的負担を軽減するようにしました。さらに仲間からの前向きなアドバイスによって自信を取り戻し行動へつなげていけることを重視した内容に仕上げました。



自己の可能性拡大ワークお披露目会

PICスクール受講者の変化を目の当たりにする中で、さらに多くの方にこのモデルをつかひこなして、活躍の場を広げていける世界を作りたいという想いから新たに自己の可能性拡大ワーク「ちょうちょうのワーク」を考案しました。これまでのスクールでのプログラムを凝縮し、現在→過去→未来→現在の順番で内省しながら、現在地の確認と未来のゴール設定と実現にむけての具体的アクションを作成するものです。

## 2023 年度の成果・学び

グループコーチングの受講生からは、スクールを通じて同年代の仲間ができたことにとっても価値を感じられていました。特に自らの強みについて周囲へインタビューを行い、客観的に強みをとらえたことが自信を育むことにつながり、その後の行動変化につながったとの声が複数寄せられました。

自己の可能性拡大ワークはPICスクール受講生だけでなく、興味ある方へ無料でワークショップ（リアルとオンライン）を複数行いました。参加者からは、ステップが分かりやすいため楽しくアクションプランが作成できる良さや、行動を起こしたくなる仕掛けがすごいなど好意的な感想をいただくことができました。



PIC 合宿の様子

## 2024 年度の活動予定

昨年度はアフターコロナによる人的流動が変化したことにより、2つの事業（地域経済活性化プロジェクトの地域クラウド交流会とPICスクール）が活発になり運営するための人的リソースが不足する状況に直面しました。今後の運営について慎重に検討を重ねた結果、今年度はPICスクール事業のエコシステム拡大に注力することを決断しました。自己の可能性拡大ワークを誰でも活用できるものとして、「PICスクール」プリセプターとして活動するメンバーの支援を中心に進めて参ります。一人でも多くの方が自分の可能性を信じて一歩を踏み出していける未来を作りたい。そんな思いを大切にしながら活動を進めて参ります。

# 11

## カーボンニュートラルプロジェクト



### 「カーボンニュートラルプロジェクト」とは

2023年日本では災害級ともいわれる猛暑に見舞われ、迫りくる地球温暖化の兆しをよりリアルに感じた方も多かったのではないのでしょうか？日本政府は、2050年までに温室効果ガス排出量ゼロを目標に掲げ、脱炭素社会の実現に向けての取組みが始められています。私たちにも身近なことからできることはないだろうか？と考え二酸化炭素排出量削減に向けて2022年度から活動をスタートしています。

### 2023年の取組みについて

私たちは2022年度よりTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）に関するリスクと機会に関する開示を行っています。これは東証プライム市場に上場する企業に対して義務付けられたものですが、この作成をきっかけに環境への具体的な取組みを始めたいと考えていました。

そんな中、株式会社ecommitという環境循環商社との出会いがありました。弊社のkintoneを活用して下さっているご縁からつながり、ecommitさんが提供する「PASSTO」という衣類回収BOXを日本橋本社オフィスに設置する取組からスタートしました。これはサイボウズ社員がつかわなくなった衣類や雑貨を集めリユースするという取組みです。しかし、サイボウズはリモートワーク中心の働き方のため平均出勤率は20%程度しかなく、出勤する社員がこんなに少ない中で、どうやって衣類を持参してもらえるようにするのが課題でした。社内勉強会の企画、入社イベント開催時の出張BOXの設置、社長からの呼びかけ、衣替え時期にあわせての告知、リアルタイム回収量の掲示など、様々な工夫を重ね、できるだけわかりやすく、数回にわけて呼びかけ啓蒙活動を実施していきました。



社内に設置した「Passto」

### 2023年度の成果・学び

衣類回収状況は社員にリアルタイムで共有できるようにkintoneに情報を登録していきました。この取組みにより、3か月間で社内で119kgの衣類が回収され、その98%の衣類がリユース市場に循環するという結果を得ました。これは、そのまま廃棄されていた場合に排出されていた97kgの二酸化炭素が14kgまで削減（85%削減）できたことを意味し、とても大きな成果だと感じています。また、社員への呼びかけ方法を工夫することで、身近な環境への取組に意識を向け行動をおこしてもらうことが可能であることもわかり、たしかな手応えを感じています。

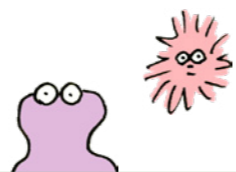


Passto 衣類回収状況アプリの仕組み

### 2024年度の活動予定

今年は、ESG経営に関する情報開示の整備や、私たちが得意なチームワークを活かした環境活動の取組みを社外に広める活動にも着手していきたいと考えています。今私たちにできることはなにか？を考えながら一歩ずつ着実に取り組んでまいります。

# 12 非営利団体との協働プロジェクト



## 非営利団体との協働について

サイボウズでは2015年よりクラウドサービスを特別価格で提供する「NPOプログラム」をスタート。さらに2018年からNPO法人だけでなく業務効率化ツールへの投資が困難なPTAや自治会といった任意団体や非営利徹底型の一般社団・財団法人に範囲を広げた「チーム応援ライセンス」でクラウドサービスを提供し、2200を超える非営利団体にご利用いただいています。

また2021年から「NPOインターンシップラボ」を助成し、各地の中間支援団体と共に若い世代が社会課題や地域づくりに関わるきっかけ作りを応援してきました。



サイボウズ  
チーム応援ライセンス

## 2023年の取組みについて

効果的なIT活用をオンラインで学びあう「チーム応援カフェ」を定期開催するほか、様々な非営利団体の好事例を記事や動画、イベントで発信しています。

非営利団体向けの取り組みページでは、市民活動の中間支援、全国の高校生の総



LIVES x TECH アイデアソン 2023

合文化祭、LGBTQ、PTA、マンション管理組合、食糧支援、移動販売といった様々なジャンルのIT活用を紹介してきました。

また障害当事者の方とお助けロボットを考える「LIVES x TECH アイデアソン2023」、「NPO事業承継サミット2023」「NPOインターンシップラボサミット2023—若者と地域をつなぐ—」といったイベント開催にも協力し、様々な参加者と学びあってきました。

## 2023年度の成果・学び

全国約2000のお寺が743の市民団体と連携し、お寺におそなえされる食べ物や日用品をひとり親家庭におすそわけする認定NPO法人おてらおやつクラブには、コロナ禍で直接助けを求める家庭が急増しました。

そこで各地のお寺から近隣の家庭に匿名で配送するシステムを学生の協力を得てkintoneをベースに構築。事務局の負担は減り、各地のお寺や支援者の「助けてい」という思いは一層いかされることとなりました。また携わった学生は起業しノウハウを継承、チームとして団体を支える仕組みをつくっています。

多様な関係者の連携にクラウドサービスを効果的に活用いただいているこの事例については、「kintone hlve2023大阪」「チーム応援カフェ」「Cybozu Days 2023」にて紹介させていただきました。



おてらおやつクラブの仕組み

## 2024年度の活動予定

引き続き、多様な団体と協働し関係者が各々の持ち味をいかしチームの理想を実現できるようクラウドサービスや学びの機会を提供してまいります。



サイボウズチーム応援ライセンス▶

## 13 あとがき

「ソーシャルデザインラボ2023年活動報告書」をご覧ください、ありがとうございます。

現在14名のメンバーがそれぞれの関心ある社会課題テーマと向き合いながら「サイボウズ流のチームワークによる多様な価値観の人が安心して暮らしている社会づくり」を目指して活動を行っています。

2023年は5月にコロナウィルス感染症の5類移行により行動範囲の制限が解除され、前年度よりも活発な活動を進めることができるようになりました。この3年間制約のある中での活動により、コミュニケーション手段がリアルな交流だけではなく、オンラインやリモート支援など種類が増え、活動量にもプラスの変化が起きていたことを実感できました。活動範囲を広げられたことにより、さらに大きなチームで課題に取り組めるようになってきている手ごたえも感じています。特に災害支援においては、海外へのリモート支援の手法確立や、能登地震災害支援における国・地方自治体・関係パートナー企業との連携した活動などIT基盤をフルに活用した仕組みが発展しています。

昨年発行した本活動報告書をご覧くださいことがご縁で、新しい実証実験の依頼につながり、IT活用による菓の不動産の有効活用モデルづくりにも貢献することができたのは、大変うれしい出来事でした。

2024年は、能登地方の災害・復興支援をはじめ複数のプロジェクトが連携しながら、取り組む活動も増えていく予定です。

各プロジェクトの最新情報は更新SNSやソーシャルデザインラボWebページでも発信を行ってまいります。以下のQRコードよりぜひご覧ください。

また、私たちの活動に関心をお持ちいただいた方、「詳しく話を聞いてみたい」と感じてくださる方はぜひ、お気軽にお声がけください。

サイボウズソーシャルデザインラボ 2023年活動報告書 編集担当

小椋としえ 中村龍太

お問い合わせ：po@cybozu.co.jp



公式 note



ソーシャルデザインラボ  
Web ページ



Social Design Lab.

そでらほ

